

第1学年 国語科学習指導案

勝山市立村岡小学校

1 単元名 こえにだしてよもう てんとうむし

2 単元の目標

(1) 工夫して詩の音読をしたり、自分の感じたことや思ったことを詩に表そうとしたりしている。 【関心・意欲・態度】

(2) 語のまとまりごとに意味を考えながら、音読することができる。

【読むこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

(3) 新聞の写真から書く題材を決め、簡単な詩を書くことができる。 【書くこと】

3 単元について

本単元では、詩人が作った詩を工夫して楽しく音読したり、自分で題材を決めて詩を作ったりする活動を通して、詩に親しみ、その楽しさに触れる活動を行う。

詩「てんとうむし」は、語りかけるような文体で書かれており、出てくる生き物（てんとうむし）になりきって音読するのに適した作品である。児童がてんとうむしの気持ちになって読み、音読の工夫を考え、話し合うことで、難しい言葉を使わなくても詩の解釈を交流することができると思う。

また、本単元では読むだけでなく、詩を書く活動も行うため、詩の形態や特徴についても学習する。詩を書く題材は、児童が新聞の中から選んだ写真を使う。自分が選んだ写真を使うことで、詩を書くという初めての活動にも、意欲を持って取り組むことができると思う。また、新聞の写真には、児童が初めて見るものや、目を引くようなものも多く、友達の選んだ写真や詩にも興味を持って交流できるであろう。

4 指導について

(1) 読み方を工夫し、正しく音読をするために

児童が詩の内容に興味・関心を抱きながら読み、内容のイメージを持ちやすくするために、導入では、題名やイラストから連想されることを多く挙げさせてから詩と出合わせたい。そして、列読みやリレー音読など、さまざまな読み方を経験させる。1年生の児童にとって、語のまとまりごとにすらすらと読めるようになることが、意味の理解につながるからである。音読の仕方を考える際には、ペアでの話し合い活動を取り入れる。最初から全体の場で話し合いをすると、特定の児童の意見だけで読み方が決まってしまうと考えるからである。また、文から受けるイメージや感じ方を読みに反映させるために、読む速さや大きさ、調子などを考えるよう助言したり、「どの文」を「どのように」工夫したのかを発表させたりすることで、いろいろな読み方を認めていきたい。

(2) 多様な言葉を引き出し、詩を書くために

題材は新聞記事の写真から選ぶようにする。あらかじめ、自分の好きなものや興味のあるものの写真を集めておき、そこから題材を選ぶことで、意欲を持って取り組むこと

ができると考える。しかし、児童にとって、詩を書く活動は初めてのことであり、中には、詩を書く材料となる言葉が思い浮かばない児童もいると考えられる。そこで、題材についてイメージを広げるために、マッピングを活用する。その際、見て分かること以外にも、「音」「触ったかんじ」など、想像を広げたり、自分の経験を想起させたりして積極的にイメージを広げることができるようにする。

また、いろいろな詩を紹介したり、学級に詩集を置いたりすることで、詩の長さや形式にこだわらず、自由な発想で書けるようにする。

6 本時の目標

新聞の写真を見て連想した言葉を使って、詩を書くことができる。

7 準備物 新聞記事の写真 詩の見本 マッピング用・清書用のワークシート

8 本時の学習過程（本時 3 / 3 ）

	学習活動	学習課題	主な発問	
	予想される児童の反応（・）			教師の支援(☆ICT支援)と評価
0	1	今日の学習の課題を確認する。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>じぶんがえらんだしゃしんを見て、見つけたことやかんじたことを、しにしよう</p> </div>			
3	2	児童の作品を見て、前時の活動を想起する。		・詩の長さや表現の仕方など、よいところを紹介することで、本時の活動に対する意欲や見通しを持たせる。
8	3	新聞の写真を見て、思いつく言葉をマッピングする。 ・「見たこと」はたくさんあるね。 ・「触った感じ」「におい」は分からないから書かないでおこう。 ・写真に出てくる人は、どんなことを思っているのかな。		・本時まで、児童に新聞記事の写真を選ばせ、マッピング用のワークシートに写真を貼らせておく。（NIEタイム） ・教師が行ったマッピングを提示し、写真と照らし合わせながら項目の確認を行う。 ・マッピング用のワークシートに、「見たこと」「触った感じ」などの項目を入れておくことで、言葉を考えやすいようにする。
18	4	マッピングしたものの中から言葉を選び、詩を書く。 ・書いた言葉を全部使わなくてもいいんだね。 ・短い詩でもいいな。 ・題名は後で考えよう。		・教師が書いた詩を提示し、マッピングした言葉のどれを使ったかを確認する。 ・詩を書くときのポイントを示す。 ・前時でなかなか書き出せなかった児童を把握しておき、個別に支援をする。 ・早く書き終わった児童には、2枚目の用紙を渡す。

【書くこと】

新聞の写真から言葉を連想し、その言葉を使って詩を書くことができる。

(ワークシート)

・ペアの発表を聞いたら、よかったところやおもしろかったところを伝えるようにする。

・友達のよかったところや、自分の作品で工夫したところなどを発表させる。

1 0 授業の観点

- ・ 詩を書く際、マッピングをしたことは、児童から言葉を引き出し、詩を書く手立てとして効果的であったか。

1 1 ご高評

言語活動例： 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 想像したことなどを文章に書くこと。

重点化	指導事項		次	時	学習活動	評価基準	支援及び留意点
	読(1) ア 伝国 (1)イ	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	一	1	「てんとうむし」をくふうしてよもう ・題名やてんとうむしのイラストから思い浮かぶことを挙げる。 ・「てんとうむし」の詩を、語のまとまりや意味を考えながら読む。 ・「てんとうむし」の詩を工夫して読む。	関詩の読み方を考え、工夫して読もうとしている。(発言・態度) 読・伝国語のまとまりごとに意味を考えながら、工夫して音読することができる。(音読)	・児童が詩のイメージを持ちやすくするために、イラストを準備し、そこから思い浮かぶことを多く挙げさせ、詩に対する関心を高めるようにする。 ・正しく音読できるよう、様々な読み方でくり返し音読の練習をする。 ・ペアで音読の工夫を話し合う時間をとり、いろいろな読み方が出るようにする。
◎	書(1) ア	経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。	二	2	しんぶんのしゃしんを見て、かんじたことや見つけたことを、しにしよう。 ・教師が提示した写真を見て、見つけたことや、思ったことなどを、学級全体でマッピングする。 ・マッピングした言葉を使って詩を作る。 ・作った詩をペアや全体で共有する。	書写真から連想される言葉をマッピングし、その中から必要な言葉を選んで詩を書くことができる。(観察、ワークシート)	・提示する写真は、児童がイメージを持ちやすいものの準備する。 ・ワークシートの項目を一つ一つ説明しながら、全体でマッピングを行う。 ・詩を書くときのポイントを示す。 ・初めての作業なので、丁寧に説明をし、なかなか書き出せない児童には個別に支援する。
				3 (本時)	じぶんがえらんだしゃしんを見て、かんじたことや見つけたことを、しにしよう。 ・教師の例を参考に、新聞の写真から連想される言葉をマッピングする。 ・教師の例を参考に、マッピングした言葉を使って詩を作る。 ・作った詩をペアや全体で共有する。	関新聞の写真から感じたことや思ったことを詩に表そうとしている。(態度・ワークシート) 書新聞の写真から連想される言葉をマッピングし、その中から必要な言葉を選んで詩を書くことができる。(観察・ワークシート)	・前時に書いた児童の作品をいくつか提示し、活動を想起させる。 ・見本を見せ、完成のイメージを持たせる。マッピングしたものと詩の両方を提示し、詩で使った言葉が分かるようにする。 ・あらかじめ新聞の写真から題材を選んでおき、ワークシートに貼らせておく。(N1Eタイム) ・前時の活動でなかなか書き出せなかった児童を把握しておき、個別に支援する。

見つけたこと
かんじたことを
しにしよう

国語への関心・意欲・態度に関する評価 工夫して音読をしたり、詩を作ったりする活動に意欲的に取り組んでいる。